

2024年6月21日

学校法人三幸学園
大宮こども専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 倉持 耕哉

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 倉持 耕哉 (Gakken ほいくえん戸田公園 園長)
- ② 長谷川 翔梧 (令和5年度卒業生)
- ③ 島田 貴司 (飛鳥未来きずな高等学校 キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月21日 (会場 大宮こども専門学校 7号館 201教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 大宮こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 倉持 耕哉

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・チーム担任制を設け、定期的な学年ミーティングや生徒面談の裁量を広げ生徒指導の多様化を図った。
- ・現代の学生に合わせた実習指導を学内で模索し、実習意欲の向上や実習力向上を図った。
- ・保育分野はダウントレンドであるものの、一定の希望層が存在する為、姉妹校通信制高校を中心に連携を強化した。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・チーム担任制になったことで、一人の担任だけでなく様々な教員の意見を聞けることがメリットに感じた。また、相談窓口が拡大したことにより、教員に相談しやすい環境に変化した。しかし、広がった窓口を上手く活用できる学生とそうではない学生が存在し、有効活用しきれない課題もあるため、教員側から学生への積極的アプローチは引き続き必要ではないか。(長谷川委員)

- ・チーム担任制にすることで、新任教員のサポートや育成にもつながる。しかしクラス担任制より個人を見る目が分散してしまう為、全体を見中でもどのクラスを中心に見るのかという基本軸は設定しておくより良いのではないか。(島田委員)

- ・専門学校側が直接高校に学校説明に来校する等の連携は、保育の魅力を高校生に伝える良い機会である。姉妹校という強みを生かした教育・指導ができるよう今後も体制を整えていく必要がある。(島田委員)

- ・実習で一番大切なことは基本的な生活習慣で、保育力は就職後の現場の経験で身につけることができると考える。何のために実習に行き、実習中・実習前後で何を学ぶことができるのかを学校側が学生に気づかせてあげることが重要かつ実習力に繋がるのではないか。(倉持委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」など、入学時のスタートアッププログラムで重点的に話をしており、教育理念の浸透は図れている。但し、継続的に伝える機会はないため、進級生にも改めて教育理念や人材育成像を共有する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・新入生の入学前に、保護者説明会を対面で実施する。
- ・進級生を対象に、入学時のスタートアッププログラムの振り返り及び重要コンテンツの再動機付けを実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・進級生の中でも、新入生クラスのサポートスタッフに選出された学生は教育理念にふれる機会も多い。教育理念の見直しや授業内での重点項目の振り返りは非常に重要であると考えため、その学生を中心に、クラスにも発信できると良いのではないかと。（長谷川委員）

・本人のみならず保護者の理解・理念浸透は非常に重要である。学校生活・実習・就職活動時等、様々な場面において、身近な存在の理解や支援が必要不可欠であるため入学前からのアプローチは継続すべきであると考え。（島田委員）

・保育現場でも保育理念の浸透は重点課題である。保育理念を職員一人ひとりが理解しているからこそ、経営や日頃の保育にずれが生じない。学校も同様にどのような教育理念の下で学校生活を送り、資格取得を目指すのか、ただ単に教育理念を言葉で伝えるだけでは学生の理解は浸透しない為、体感的に理解ができる仕組みづくりを検討できると良い。（倉持委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・コンプライアンスに対する意識の差が職員間でも生じ、若手職員まで浸透しきれていない。
- ・人事制度が複数の仕組みによって存在していたものの、教職員に見えにくく、わかりにくい部分がある。

② 今後の改善方策

- ・学園共通のコンプライアンス研修を年次問わず全職員受講する。
- ・新人事制度の導入により、適正な評価を行う仕組みの整備と処遇反映までのプロセス等を明確にする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者対応の基本等、入職して間もない職員でも必要とされる対応スキルや知識があると感じた。事例紹介や様々なことにおけるリスクの理解は早々に行うことができると良いのではないかと。（長谷川委員）

・保育現場でも多数の個人情報の取り扱いや保護者を含む外部との連携が多いため、若手のうちからコンプライアンスに関する学びを深めることは必要であると感じる。具体的な事例を踏まえて理解浸透ができると、組織としてより適切な学校運営ができるのではないかと。（倉持委員）

・人事制度の改定により、組織としての適切な人材育成、個人のモチベーションアップにつながるのではないかと。評価基準が明確になることで職員の行動基準やスタンスも改まる良い機会になると感じる。（島田委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・毎年変化する保育現場ニーズのタイムリー且つ適切な把握。
- ・現在の保育現場且つ、学生に合った実習指導のカリキュラムや評価等の仕組みが必要である。

② 今後の改善方策

- ・園長連絡会を学内で開催し、現場ニーズや求める人材像等の情報を収集する。
- ・学園全体で実習プロジェクトを発足し、実習指導内容の見直しや評価基準等の認識統一を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・1年次で行う授業内容の中でも、現場実践において繰り返し学ぶことが必要な内容もあると感じる。現場で必要とされる力を保育現場や業界関係者にヒアリングをしながら、どの学年でどれくらいの内容を実施するのが良いのか等、シラバスの見直しができる方が良いのではないか。(長谷川委員)

・保育現場や業界との連携は学生を育てる上で非常に重要である。現場の特性と学校の教育理念を相互に理解できる関係性が築けることで、共に学生を育てることができる為、各所との関係構築により力をいれていくべきではないか。(島田委員)

・実習指導内容の見直しや評価基準等の認識統一は、現場側の理解含めて重要であるのではないか。保育スキル修得に固執するのではなく、学ぶ姿勢と素直な心を持った人材、当たり前を当たり前に行える人材を育成するような指導内容を学校として検討していくと良いのではないか。(倉持委員)

・大宮こども専門学校は学校内での情報を適切に管理の上、保育現場へ共有している印象がある。その情報があるからこそ現場も受け入れ体制を整えて実習を行うことができているのでぜひ継続してほしい。(倉持委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・実習前勉強会の実施等の取り組みにより、実習前の到達度確認を経て実習へ送り出すことができた。一方で学年、学科によって指導基準等に差異が出てしまっていることで最大限の学修効果は発揮されていない。

・退学に至る可能性のある生徒情報や低減につながる対応成功事例を隔月の担任会議で情報共有したことで対応スキル向上は図れたものの、退学希望に至るまでの対応スキル向上が課題。

② 今後の改善方策

・就職担当、実習担当、学科担当の役割を明確化及び認識統一を行い、適切な学生支援を行う。

・学園全体での実習力向上プロジェクトが稼働しているため、学内でしっかり発信内容を反映する。

・学内での情報共有だけでなくスクールカウンセラー等、第三者視点での意見やスキル向上の研修を実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職活動の該当学年になってから動き出すのは遅いと感じる。実習等と並行して就職活動を進めるにあたり、事前に就職活動のイメージを沸かせるために、1年生のうちに就職につながる動機付けや合同説明会等の就職イベントを入れてもいいのではないかと。その際には、マッチングする就職先を見つけることができる等、早期に就職活動を始めるメリットを伝える必要がある。(長谷川委員)

・実習前後の個別フォロー等の取り組みは、学生の多様化に対応するためにも必要であると考え。全国統一で実習指導が検討できるスケールメリットを生かして学生に多くの情報を還元できると良いのではないかと。(島田委員)

・就職指導、実習指導、日頃の学校生活指導、何においても学内の教員のスキルアップは必要不可欠である。学内だけの情報では限界があるので、全国姉妹校との情報共有、保育現場との情報共有をベースに様々な学生に対応できる教育環境を整えていけると良いのではないかと。(倉持委員)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・教室だけでなく、ほかの場所でゆっくりとした時間を過ごせるような「のんびりスペース」を設置したことで学生の居場所ができた。そういった居場所の確保をきっかけに、学生の悩み等を引き出すことが求められる。
- ・就職における学内合同説明会を年間3回実施したものの、学生の意欲の差が見られるため、適切なタイミングでの開催と動機付けを行う必要がある。

② 今後の改善方策

- ・学校生活・就職活動ともに、個別サポートが必要な学生について、早くから個別対応ができる体制を整える。就職活動に関しては Two teachers システムを、学校生活に関しては学科担当制を、フル活用できるように教員側のサポートの意識を醸成していく。
- ・外部企業および近隣の保育園園長、職員の方にお越しいただき、授業内で就職等の動機付けを実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・早期の就職指導も重要であるが、何のために早期から活動し、どのように就職先を決定していくか等、目的を明確にすることが重要である。その目的が不透明なままだと、どれほど早期活動や個別フォローを行ったとしてもミスマッチが生まれる可能性が高くなってしまいうため、教員側の意識が必要ではないか。（倉持委員）

- ・ボランティア等課外活動の機会が多いものの、学年学科によって実習と重なる等、参加できない状況が発生していた。実習や行事が重ならない期間の課題活動が単発のものでも増えていくと、チャレンジする機会が増えてよいのではないか。（長谷川委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・外部ボランティア活動の校内教育への導入数は増えているものの、参加する学生に偏りが生じている。
- ・ホームルーム等での学生への直接案内や学習管理システムを使用した案内方法の工夫が求められる。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア参加における魅力や参加するメリットを具体的に学生へ伝達し、参加意欲の向上を図る。
- ・コロナ禍も影響し、オンライン等での関わりを行っていた教育連携においては、保育現場側・学生双方のメリットを鑑みて対面での実施に移行する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ボランティアの日程告知がポスターや学習管理システムへの掲載だけでは日程や簡単な概要は理解できるが案内を見るだけの学生が多くなるように感じる。実際に参加した先輩の経験談の共有やボランティアに参加することでどのような経験ができて、どのような成長につながるのか、もう少し目的やゴールが明確になると参加意欲も向上するのではないか。（長谷川委員）

・学生ボランティアやアルバイト、インターンシップの受け入れは積極的に行っているところが多い。ただ、何のために行うかという目的意識は非常に重要で、実習準備、就職に向けた自主実習等、適切な目的設定且つ適切な時期に実施できるとより良い教育体制が整い、学生に機会提供できるのではないか。（倉持委員）

・現場での実習機会や子どもとの関われる課外活動の多さに着目している高校生は多いと感じる。学校内での学びの充実だけでなく、学園内の姉妹園との連携等をフル活用して学生の活動機会として提供できると、学園のスケールメリットを生かすことができるのではないか。（島田委員）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・SNS やメディアの影響で保育業界自体のイメージが良くない現状があるため、まずは保育業界の魅力付けを強化した学生の募集活動が必要。
- ・入学希望者の学生層の変化に合わせた個別対応の環境やスキルアップの機会の増加。

② 今後の改善方策

- ・保育の魅力付けをメインとしてオープンキャンパスの開催をする。（例：姉妹園でのオープンキャンパス実施）
- ・参加する高校生が複数の選択肢の中から選択できるオープンキャンパスの内容を検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ピアノ初心者歓迎というキャッチーなフレーズ等は学生募集にとって重要だと思うが、実際の授業の様子やどこまで技術を身につけて成長できるのかという具体的なイメージ像が見えるとより興味関心を抱いてもらえるのではないかと。授業外で実施しているピアノの個別レッスン等、内部だけで展開されているものの中に打ち出しのできるものがあるので、学内での取り組みを見直す機会があってもいいのではないかと。（長谷川委員）

・就職活動においてもホームページやInstagram、tiktokといったSNSを通じて情報を入手する学生が増えている。紙媒体や口コミももちろん重要であるが、影響力の大きいSNS等により力をいれていくこともこれからの学生募集活動では非常に重要ではないかと。（倉持委員）

・SNS等に卒業生が掲載されている等、身近な情報があると興味関心を抱きやすい。ただ単にSNSを更新するのではなく、現代の流行りの把握をしながら、どのような内容を掲載するか学内で検討することで、効果的な情報発信になるのではないかと。（島田委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・外部のボランティア（プロスポーツチーム託児、商業施設イベント運営）や埼玉県委託事業「リアル体験教室」の開催等、地域貢献の機会は拡大したものの、既存の連携活動に偏りがあるため、新規開拓が必要。
- ・託児利用やイベント参加者が一定であるため、さらに幅を広げた活動の増加と地域への周知が必要。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校での事例等を参考に、保育関連企業との連携を強化。
- ・既存の託児利用やイベント参加者による、口コミの拡散やSNS等での取り組み発信を検討。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・プロスポーツチームの託児や商業施設でのワークショップ等、学生の興味を引くボランティア活動が多い。子ども関連企業でのインターンシップやアルバイト等、知名度が高く、学生の興味関心がより高い連携先が新たに開拓されていくと学生の意欲にも変化が起こるのではないかと。（長谷川委員）

・ボランティア活動等を通じて、コミュニケーション能力をはじめとする様々な力が身につく、就職活動でも良い印象につながっている学生が多い。まずは学校側がボランティア活動を行うメリットを検討し、ふさわしい学年と時期を見極めて取り組みを考えることが大切であり、その上でボランティア活動のメリットを十分理解させて学生参加を促せると良いのではないかと。（倉持委員）

・他分野姉妹校での外部のつながりから保育分野でのボランティア活動につながる事例もあるのではないかと。保育分野の学校だけの情報共有ではなく、分野を超えた全国姉妹校での情報共有が活発化すると、新規開拓につながるのではないかと。（島田委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育グッズの製作や手遊び等、保育技術の習得に重きを置いているが、同時に基本的な生活習慣や社会人として必要とされる人間性等、学生のうちに身につけるべきことをしっかり伝える仕組みづくりが重要である。

保育現場側の要望に耳を傾け、様々な変化に対応できるよう引き続き情報収集をすることで、保育現場が求める人材の育成を目指していく。

また、保育の魅力をより多くの入学希望者・在校生に伝え、多くの保育者を養成できるよう、教育体制を常に見直し、社会から必要とされる学校運営を目指していく。